

第 19 回

熊本県議会

国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成30年10月1日

開 会 中

場所 第 1 委 員 会 室

第 19 回 熊本県議会 国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成30年10月1日(月曜日)

午前9時59分開議

午前11時25分閉会

本日の会議に付した事件

- (1) 2019 女子ハンドボール世界選手権
熊本開催に関する件
- (2) ラグビーワールドカップ 2019 熊本
開催に関する件
- (3) 2020 東京オリンピック・パラリン
ピック競技大会に関する件
- (4) 国際スポーツ大会の成功に向けた取
り組みに関する件
- (5) 付託調査事件の閉会中の継続審査に
ついて
- (6) その他

出席委員(15人)

委員 長 淵 上 陽 一
副委員 長 高 野 洋 介
委員 藤 川 隆 夫
委員 城 下 広 作
委員 松 田 三 郎
委員 吉 永 和 世
委員 池 田 和 貴
委員 溝 口 幸 治
委員 西 聖 一
委員 内 野 幸 喜
委員 橋 口 海 平
委員 楠 本 千 秋
委員 中 村 亮 彦
委員 松 野 明 美
委員 吉 田 孝 平

欠席委員(なし)

委員外議員(なし)

説明のため出席した者

国際スポーツ大会推進部

部 長 小 原 雅 晶
政策審議監兼
国際スポーツ大会推進課長 寺 野 慎 吾
知事公室
政策審議監 白 石 伸 一
くまモングループ課長 小金丸 健
総務部
人事課長 小 原 雅 之
企画振興部
地域・文化振興局長 水 谷 孝 司
首席審議員兼企画課長 内 田 清 之
地域振興課課長補佐 受 島 章 太 郎
文化企画・世界遺産
推進課長 西 尾 浩 明
健康福祉部
首席審議員
兼健康福祉政策課長 沼 川 敦 彦
障がい者支援課長 永 友 義 孝
環境生活部
政策調整審議員
兼環境政策課課長補佐 野 中 眞 治
自然保護課審議員 板 橋 麻 里
商工観光労働部
総括審議員兼政策審議監
兼商工政策課長 中 川 誠
観光経済交流局長 原 山 明 博
観光物産課長 上 田 哲 也
国際課長 波 村 多 門
農林水産部
農林水産政策課審議員 徳 永 浩 美
流通アグリビジネス課長 井 上 克 浩
土木部
政策審議監 平 井 宏 英
首席審議員兼監理課長 藤 本 正 浩
都市計画課審議員 伊 東 貢
教育委員会
教育理事 山 本 國 雄
教育政策課長 江 藤 公 俊

体育保健課長 西村 浩二

警察本部

参事官兼警務課長 開田 哲生

参事官兼生活安全課長 中島 真一

参事官兼地域課長 木庭 俊昭

交通規制課長 大内田 朗二

理事官兼警備第二課長 奥村 一精

事務局職員出席者

政務調査課課長補佐 岩永 千夏

政務調査課主幹 植田 晃史

午前9時59分開議

淵上陽一委員長 ただいまから、第19回国際スポーツ大会推進特別委員会を開催します。

まず、今回、執行部出席職員に変更があり、新たに警察本部生活安全企画課長が出席しておられますので、自己紹介をお願いします。

（中島生活安全企画課長自己紹介）

淵上陽一委員長 それでは、議事に入ります。

お手元に配付しております本日の式次第に従い、まず執行部から一括して説明を受け、その後、質疑を議題ごとに行いたいと思います。

なお、委員会の運営を効率的に行うため、説明につきましては着座にて簡潔にお願いいたします。

それでは、議題1、2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件について、説明をお願いします。

寺野政策審議監 それでは、お手元の特別委員会資料に沿いまして、前回6月の委員会資料からの変更点などを中心に御説明させていただきます。

まず、議題1の、2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件でございますけ

れども、2ページをお開きください。

中段の、国際試合の実施のところをごらんください。

1点目は、8月に開催しました「おりひめ」JAPANトライアルゲームズ2018の実施状況を記載しております。

大会に際しましては、委員の皆様を初め多くの県議会議員の皆様に、試合観戦やレセプションなど御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

3日間で4,545人の来場があり、来年の本大会に向けた盛り上がりにつながったものと考えております。

次に、おめくりいただきまして、5ページをお願いします。

第17回女子ハンドボールアジア選手権についてでございます。

大会概要は、来る11月30日から12月9日までの10日間、県内3会場で10カ国が参加し、29試合が行われます。

8月6日に抽選会が行われまして、A、B2つの予選グループに分かれて、日本はAグループとなりました。

おめくりいただきまして、6ページをごらんください。

6ページが、その日程、対戦カードでございます。赤のところ、日本戦をつけております。

この大会の実施によりまして、本大会に向けた大会運営の経験値を高めるとともに、さらに機運醸成に弾みをつけてまいりたいと考えております。

次に、7ページをごらんください。

大会ボランティアについてでございます。

7月18日から募集を開始しておりまして、ラグビーなどと違い高校生の参加も募るものでございます。現在、県や関係市の広報媒体を活用して、広く周知を図っているところでございます。あわせて、大学や企業、関係団体等を訪問し募集活動を続けております。

学校におきましては、授業のスケジュール、企業などは人事配置の変更などがあるため、募集は2期に分けて今回を第1次、来年の4月から6月に2次募集を行うこととしております。

8ページをお願いします。

ボランティアチーム名に「KUMAMOTO COLORS」と名づけまして、現在、機運醸成もかねて、このチーム名のロゴデザインも募集しているところでございます。

9ページをお願いします。

2019女子ハンドボール世界選手権大会の成功を支援する会についてでございます。

これは、今後大会の全国的な認知度を高めるため、幅広い人脈や情報発信力をお持ちの方々による全国的な応援組織を発足することで、大会のオールジャパンでの盛り上げを図っていくものでございます。元日本銀行総裁で、現在キヤノングローバル戦略研究所理事長の福井俊彦氏を初め、150人程度を予定しております。12月を目途に設立する予定でございます。

続きまして、体育保健課から御説明します。

西村体育保健課長 10ページの、競技普及について御説明いたします。

現在ハンドボールの競技普及を目的とし、県内小学校10校を対象に、競技指導にすぐれた人材を活用しました、(1)ハンドボール教室を実施しております。

本年度は、特別ゲストとしてくまモンにも参加いただきまして、教室を盛り上げるよう計画しております。

(2)の県民スポーツの日「ふれあいスポーツ」ハンドボール教室においては、日本リーグの湧永製菓ハンドボール部から9名の方をお招きし、ハンドボール教室を開催してまいります。

なお現在、ふれあいスポーツ事業のチラシ

の配付や、9月初旬からコマーシャルの放映等によって周知を図っているところでございますが、1人でも多くの県民が参加できるよう促すとともに、事業開催当日の情報番組に本課職員が参加しまして、ハンドボール競技の魅力を発信しますとともに、女子ハンドボール世界選手権に向けた機運の醸成に努めてまいります。

寺野政策審議監 次に、11ページの今後の主なスケジュールをごらんください。

女子ハンドボール大会に関する今後の主な予定としましては、10月1日からアジア選手権のチケットを販売開始します。きょうからでございます。

また、11月ごろには、来年の本大会のチケットの販売を開始する予定でございます。そして来年6月には、本大会のドロ会議、組み合わせ抽選会を予定しています。

議題1については、以上でございます。

○淵上陽一委員長 次に、議題2ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件について、説明をお願いします。

寺野政策審議監 14ページをごらんください。

チケット販売開始についてでございます。これまで「ラグビーファミリー」、開催地住民等の先行販売がございましたけれども、9月19日から一般抽選販売が始まりました。

チケットの購入はインターネットで行うことになっておりまして、以前から手続きがわかりにくいなどの声が寄せられておりましたことから、この一般抽選販売に合わせまして、上通のくまもとDMC内にID登録やチケット購入のサポートを行うセンターを設置したところでございます。午前9時から午後7時まで、年中無休で受け付けております。このセンターの活用状況を見ながら、他の施設へ

の設置を検討してまいります。

次に、ファンゾーンでございます。熊本での試合開催日の10月6日、13日や日本代表選などに合わせまして、花畑広場周辺で実施予定でございます。

次に、16ページをごらんください。

公認キャンプ地の決定についてでございます。熊本で試合を行いますフランス、トンガ、ウェールズ、ウルグアイの4チームにつきまして、7月から8月にかけて、組織委員会と熊本県、熊本市でキャンプ地契約を締結し、正式な公認キャンプ地となりました。今後、来年3月にかけて、各チームにより2回目の実地視察が予定されており、早速9月初めにはウェールズ代表による視察が実施されました。また10月5日からはフランス代表チームの視察が予定されております。

17ページをごらんください。

ボランティアの募集でございます。ラグビーワールドカップのボランティアにつきましては、7月18日まで全国一斉に募集され、組織委員会によりまして、本県でも全国から約650人の応募があったとのことでございます。今後、応募者に対するインタビュー、面接が予定されておりまして、本県では10月12日から14日にかけて熊本市総合体育館で行われます。

次に、6番の開催都市特別サポーターの選任でございます。

ワールドカップ熊本開催の機運醸成のため、本県でも開催都市特別サポーターを設置することとし、県、熊本市とゆかりがあり、知名度のある方々を選任しました。

18ページをごらんください。

八代亜紀さん、宮崎美子さん、シンガーソングライターのMICAさん、熊本城おもてなし武将隊の皆さんにお願いしております。大会開催まで各種メディアへの出演による大会の告知やイベントなどの参加、ウェブサイト等の電子媒体の出演等の活動を行っていた

たく予定でございます。

次に19ページ、地域交流計画についてでございます。

7月に、フランス観光開発機構在日代表のフレデリック・マゼンク氏らを熊本にお招きし、19ページから20ページに記載しておりますが、県内の日本遺産等の視察や来年の国際スポーツ大会に向けたフランス人観光客の誘客促進のためのセミナーを実施したところでございます。

次に、少し飛んでいただきまして22ページをごらんください。

中段の、えがお健康スタジアムの座席譲渡でございます。ワールドカップに向けまして、えがお健康スタジアムの座席の一部を背付観客席に交換するため、既存の平椅子約1万席を撤去することとなりました。

これに関連しまして、組織委員会から不要となる椅子を釜石市に提供できないかの提案がありまして、釜石市の釜石鶴住居復興スタジアムに合計7,000席を譲渡したところでございます。7月に譲渡しました300席のうち、240席はメインスタンドに「絆シート」として設置され、残りの60席も9月末に譲渡した6,700席と合わせまして、ラグビーワールドカップ開催までに仮設観覧席として活用するとのことでございます。

8月19日に釜石で開催されましたオープニングのイベントにおいて、釜石市長から知事宛に感謝状が贈呈されました。

そのほか、23ページ左の表のとおり、県内の市町村にも譲渡しております。

続きまして、体育保健課から説明いたします。

西村体育保健課長 次に、競技普及につきまして御説明いたします。

ラグビーにつきましても、先ほどハンドボールの10ページのところで御説明しましたとおり同様の取り組みを行い、競技の普及と機

運の醸成を図ってまいります。詳細につきましては、省略させていただきたいと思いません。

寺野政策審議監 最後でございます。24ページの、今後の主なスケジュールをごらんください。

9月から11月にかけて、大会1年前関連イベント事業などを実施します。

第1弾としまして、9月22日に開催1年前記念イベントを開催しました。

10月5日から7日まで、ポップアップミュージアムを開催します。

これらにつきましては、後ほど御説明いたします。

チケットにつきましては、11月12日まで一般抽選販売、来年1月19日からは、一般先着販売が行われることになっております。

議題2は、以上でございます。

○洲上陽一委員長 次に、議題3、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件についての説明をお願いいたします。

寺野政策審議監 26ページをごらんください。

キャンプ地の誘致でございます。最近の主な動きを御説明します。

インドネシアのバドミントン競技につきましては、熊本での事前キャンプ実施が決定しておりまして、交流事業の一環として、ちょうどあすまで熊本の高校生がインドネシアのジュニアチームと親善試合などを行うため、インドネシアに行っております。

27ページ中段の(3)アンゴラにつきましては、今後、玉名市が在京のアンゴラ大使館を通じまして、女子ハンドボールチームのキャンプ地誘致に取り組むこととなっております。県も支援していくこととなっております。

続きまして、体育保健課から説明いたしま

す。

西村体育保健課長 28ページ中段をごらんください。

次に、3、選手育成に関することについてですが、本年度も(1)の2020東京オリンピックに向けた選手育成支援事業を実施しております。現在31名の指定選手に対しまして、12の競技団体及び県体育協会と連携し、育成事業に取り組んでいるところでございます。

29ページに育成選手一覧を掲載しておりますが、現在30ページから31ページ上段のほうに掲載のとおり、各競技の世界選手権大会や夏に行われましたアジア大会等で活躍するなど、成果を上げているところでございます。

(2)の2020東京パラリンピック選手育成強化事業については、掲載のとおりでございます。

次に、32ページ下段の4、機運の醸成に関するについて御説明いたします。

オリンピック・パラリンピックさらにはスポーツに対する興味・関心を高め、大会の成功に向け機運を盛り上げるため、(1)のオリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業に取り組んでおります。

事業概要につきましては、現在、県内23校を推進校として指定し、オリンピック・パラリンピアンとの交流や事業の実施に向け準備を進めているところでございます。

また8月に推進校の教員を対象に、パラリンピアンを招いて教員セミナーを開催しますとともに、12月には市民フォーラムを県民交流会館パレアで開催し、より多くの県民の皆様に参加していただき、機運の醸成につなげてまいりたいと思っております。

本課は、以上でございます。

寺野政策審議監 続きまして、34ページをお願いします。

その他としまして、聖火リレーを御説明い

たします。

去る7月に、本県での聖火リレーの実施日が、2020年の5月6日から7日に決定されました。沖縄県から熊本に入り、長崎県へつなぐルートとなっております。

これを受けまして、本県では8月24日に第1回熊本県実行委員会を開催し、熊本県内の聖火リレールート選定方針を決定したところでございます。本県内のルート選定方針は、35ページの中ほどにありますとおり、全国共通のコンセプトに加えまして、熊本地震からの復興を中心とした地域再生など4つの方針を立てております。今後、実行委員会での議論を重ね、年内を目途にルート案を詰め組織委員会へ提出する予定でございます。

最終的なルートは、組織委員会が国際オリンピック委員会・I O Cの承認を得た上で、来年7月ごろに公表することになっております。

議題3については、以上でございます。

○淵上陽一委員長 議題4、国際スポーツ大会の成功に向けた取り組みに関する件について、説明をお願いします。

寺野政策審議監 それでは、37ページをお願いいたします。

まず、国際スポーツ大会推進部の取り組みについて御説明いたします。

当部としましては、(1)にありますように3つの目指す成果を設定しまして、これらの達成に向け庁内関係部局を初め、関係機関、市町村、九州各県と緊密に連携しながら取り組みを進めてまいります。

次に、(2)フランスとの交流や誘客に向けたPR活動でございます。

まず、フランスにおけるラグビーワールドカップ九州合同PRでございます。7月にフランス・パリで開催されましたJ A P A N E X P Oにあわせ、九州合同でフランスを訪

問し、ラグビーワールドカップのPR活動を行ってまいりました。本県から小野副知事が参加し、ラグビーワールドカップに加えまして女子ハンドボール世界選手権のPR活動を行いました。

1枚おめくりいただきまして、38ページをお願いします。

本県独自の活動としましては、パリ市副市長やオクシタニー地方圏議会、本県の誘致企業であります堀場製作所のグループ会社H O R I B A A B X社などを訪問し、両大会のPRや観戦の依頼などを行ったところでございます。

39ページをお願いします。

イの、フレンチウィーク2018関連イベントでのPRでございます。10月9日から11日にかけて、熊本市で行われます日仏自治体交流会議に合わせまして開催される「くまもとフレンチウィーク2018」のイベントなどを通じまして、国際スポーツ大会のPRを実施することとしております。

40ページをお願いします。

10月2日のシンポジウムにおきましては、小原部長が参加し国際スポーツ大会の概要などを説明することとしております。

次に、下段の機運醸成に向けた取り組みでございます。

1点目は、経済団体との交流としまして、第21回熊本フォーラムでのPRでございます。

8月末に熊本経済同友会主催でフォーラムが開催され、その分科会で国際スポーツ大会に向けた取り組み状況などについて説明し、大会への協力をお願いしたところでございます。

2点目は、41ページの、くまモンの熊本国際スポーツ大会PR行脚でございます。これは、ラグビーワールドカップと女子ハンドボール世界選手権大会が来年に迫ったことを受けまして、くまモンが九州自治体などを訪問

し両大会をPRするもので、第1弾としまして、ラグビーワールドカップ公認チームのキャンプ地に内定しております長崎市と島原市を訪問しました。それぞれ市長から歓迎を受け、両大会の成功に向けて連携・協力していくことを約束いただいたところでございます。

42ページをお願いします。

3点目は、九州経済連合会への協力依頼でございます。

7月31日に、島田県ハンドボール協会長などが九州経済連合会の麻生会長を訪問しまして、女子ハンドボール世界選手権大会などに関する情報提供を行いますとともに、大会のPRに向けて九州が一体となった協力・支援を依頼し、会長からも了承いただいたところでございます。

43ページをお願いします。

(4)のPR活動でございます。

まず、女子ハンドボール世界選手権大会関係です。

1点目は、大会公式PRキャラクターくまモンの活用です。

「くまもとから未来をプロジェクト！」としまして、くまモンが県内外のスポーツイベントや強豪チーム、学校などを訪問し、国際スポーツ大会と熊本の魅力のPRを行っております。

6月以降、徳島、東京、三重県など、全国各地を回ってPR活動を行いました。

2点目は、45ページをお願いします。

イベントの実施でございます。

7月18日は、開幕500日前ということで、機運醸成や準備を加速するため、各試合開催地において関連行事等を実施しました。

熊本市では県庁でHand in Handプロジェクト出発セレモニー及び公開収録を行いました。

46ページをごらんください。

八代市では、大会の八代市実行委員会設立

総会が開催され、またカウントダウンボードも設置されました。

47ページの山鹿市では、カウントダウンボード設置の除幕式や、市長、オムロンハンドボール部員などによる大会PRなどが行われたところでございます。

次に、関係団体との連携事業としまして、ロアツソのホームゲームの際に、女子ハンドボール大会のピッチボードを設置しておるところでございます。

48ページをお願いします。

ラグビー関係のPRでございます。

大会の機運を醸成するため、開幕1年前でありチケットの一般抽選販売が開始される9月から約1カ月半かけまして、中心市街地などにおいて、イベント開催や都市装飾を初めとする、さまざまな取り組みを実施することとしております。

まず、ラグビーワールドカップ開催1年前イベントとしまして、9月22日に下通のCOSCOSA前で開催都市特別サポーター任命式、トークショーなどのステージイベントなどを行いました。

また、昨日9月30日は、熊本、福岡、大分3県合同PRイベントとしまして、福岡のヤフオクドームで開催されましたソフトバンクホークス対千葉ロッテ戦におきまして、PRブースの設置等を行っております。

49ページをお願いします。

10月5日から7日には、ポップアップミュージアムとしまして、ラグビーワールドカップ全開催12都市をつなぐ移動型の巡回ミュージアムを、イオンモールで開催します。優勝トロフィーのウェブ・エリス・カップや日本代表のサイン入りジャージーの展示やラグビーアトラクションなどを実施する予定でございます。

次に49ページの、都市装飾でございます。

熊本中心市街地や空港、JRの主要駅などにバナーの掲示などを行ってまいります。

50ページをお願いします。

情報誌への掲載につきましても、新聞や情報誌などにPR広告や特集記事を掲載しております。

他団体主催イベントでのプロモーションとしまして、9月に山都町で開催された八朔祭りに、大会公式キャラクター・レンジャーが登場しております。

51ページをごらんください。

熊本市民病院の建設現場の壁を利用して、第二高校美術部にハンド・ラグビー両大会をイメージして、絵を描いてもらったところでございます。

最後になります。52ページでございます。

各種イベントなどにおけるPRとしまして、7月に開催されましたプロ野球マイナビオールスターゲーム2018や、8月のまちなかスポーツフェスタなど、さまざまな機会を利用して両大会のPRを行っているところでございます。

当課の説明は、以上でございます。

続きまして、関係課から御説明いたします。

波村国際課長 国際課長の波村でございます。

私からは、海外からの誘客の取り組みについて御説明いたします。

資料53ページをお願いいたします。

まず、目標となる海外からの観客数の見込についてでございますが、ラグビーワールドカップについては、JTBの想定によりますと、日本全体の観客数は約180万人、うち外国人が40万人となっております。

熊本会場では、収容数3万人の会場で2試合がありますので、観客数は6万人、うち外国人は2割の1万2,000人と見込んでおります。

次に女子ハンドボールでございますが、全体の観客数は約30万人と見込んでおります。

観戦客の80%から85%を県内から、残りを県外、海外からの誘客と見込んでいるところでございます。

次に、イ、観光客の誘客の取り組みでございますが、ターゲット国を定め効果的に取り組むこととしております。

まずラグビーにつきましては、熊本で試合があるフランスそしてイギリスのウェールズ、ラグビー強豪国であり、大分で試合がありますオーストラリア、ニュージーランドを設定しております。

女子ハンドボールについては、前回優勝のフランス、前回開催のドイツ、そして強豪国でありますノルウェーなどの北欧諸国、そしてアジアの強豪国韓国をターゲット国としております。

次に誘客対策でございますが、方向性としたしましては、欧米、豪州からの観光客は大半がFIT客、つまり団体旅行ではなく個人手配旅行客であるため、FIT対策に重点を置きつつ、現地旅行会社への旅行商品造成やくまモンを活用するなど、熊本県そのものの認知度アップに向けた働きかけを行うこととしております。

続きまして、これまでの取り組みについて御説明いたします。55ページをお開きいただければと思います。

これ以降に記載しておりますが、ここでは前回の特別委員会以降の主な取り組みについて説明いたします。

まず、57ページ6番の一番下の段でございますけれども、FIT対策でございます。

ラグビー専門メディアを招請して、ラグビー会場である運動公園そして阿蘇、熊本城の見学、着付け体験やあか牛井などを取材していただき、情報発信を行っております。

次に、58ページをお願いいたします。

8番の一番下の欄でございますが、7月にミシュランガイド熊本・大分2018特別版が出版され、9月、先週でございますけれども、

九州運輸局と大分県と共同で英語版のウェブサイトを作成し、情報発信を行ったところでございます。

次に、59ページをお願いいたします。

10番でございますけれども、世界的に有名な旅行ガイドブックのロンリープラネット社を招請して、阿蘇などの観光地の情報を発信しております。

続きまして11番でございますが、東京白金台にあります八芳園で開催されました、オーストラリア、ニュージーランド、イギリス、フランスの商工会議所主催によるワールドカップ1年前イベントに出展し、本県の観光物産のPRを行っております。

次に、61ページをお願いいたします。

団体旅行対策でございます。16番でございますけれども、これは先ほど説明ありましたけれども、JAPAN EXPOに小野副知事、くまモンが参加して、大会開催観光情報等のプロモーションを行っております。くまモン、それから5月に本県に招請いたしましたフランス人ユーザーがブースで対応いたしましたところ、大行列ができるほどの多くの人が集まり、かなりのPR効果があったと聞いております。

17番でございますが、フランス及びイギリスで、政府関係機関やオフィシャルトラベルエージェントに対してプロモーション活動を実施したところでございます。

次に、62ページをお願いいたします。

18番の、航空会社と連携した取り組みにおいて、まず7月には全日空の御協力により、本県の食や観光情報を、機内食や機内誌で発信していただいております。

また、全日空が所属しますスターアライアンスの日本支社長会をお招きいたしまして、知事表敬や阿蘇、人吉方面へのファムツアーを開催したところでございます。さらに、成田空港での九州フェアの中で、大会開催とJAL・ANAの1万800円、熊本への乗り継

ぎ便のPRを実施しております。

次に、9月から11月にかけて、日本航空の御協力により球磨焼酎を取り上げていただき、機内誌への掲載やラウンジでの提供を行い、魅力を発信いただいております。

さらに、全日空の御協力により9月に国内線、国際線で本県の観光動画を配信していただいております。

次に、66ページでございます。

25番、一番上でございますけれども、受入環境整備の取り組みでございます。外国人旅行者受け入れに当たってのキャッシュレス決済の紹介やトリップアドバイザーを活用した情報発信の有効性、インバウンドの成功事例や各種補助金制度の紹介などの説明を県内5カ所で開催し、約200名の参加があったところでございます。

続きまして、67ページから今後の予定について掲載しております。この中で、主な取り組みについて説明いたします。

まずFIT対策でございますが、引き続き東京都を初めJNTO、九州観光推進機構、九州各県と連携した九州熊本の情報発信に取り組んでまいります。

具体的には1番の中段でございますが、フランス人プロガーを招請して阿蘇のバス旅を紹介する動画制作を行います。

その2つ下になります。10月にフランスの雑誌LE FIGAROに観光情報を掲載する予定でございます。

次に、68ページをお願いいたします。

2番でございますが、九州観光推進機構と連携し、オーストラリア向けに世界最大級のラグビーウェブメディアでありますラグビーパス、そしてイギリス、フランス、オーストラリアのラグビー専門ウェブサイトによる情報発信を行うこととしております。

また4番の一番下の段でございますが、本県の観光サイト「なごみ紀行」を全面リニューアルするとともに、英語等に加えて新たに

フランス語、ドイツ語版を作成する予定でございます。

次に、69ページでございます。

5番でありますけれども、熊本市と連携し欧米、豪向けの観光PR動画を制作することとしておりまして、年明けには阿蘇、熊本城などの観光情報をSNSなどを通じて配信する予定でございます。

6番でございますけれども、全日空の御協力により来年3月に機内誌で本県の観光情報を掲載していただく予定となっております。

次に7番でございますけれども年明け1月に、ウェールズのラグビー関係者 これ有名選手を今想定しておりますけれども、を招請しまして、SNSを通じた動画による情報発信を実施する予定としております。

次に、団体旅行対策でございます。8番でございますけれども、オフィシャルトラベルエージェント・公式旅行会社を招請して、県内のホテル、旅館等との商談会を計画しているところでございます。

次に9番でございますけれども、九州観光推進機構と連携し、フランスのEventam、オーストラリアのJapan Explorerといった公式旅行会社を招請して視察旅行を実施し、ツアー商品の造成を行うこととしております。

次に、70ページをお願いいたします。

その他の取り組みでございますけれども、まず11番から15番まで、くまモンによるPRといたしまして、くまモン誕生祭のチケットの外国人観光客への割り当て、アニメ作成、関連イベントへの出勤、世界への動画配信などを行っていくこととしております。

次に、71ページの一番下の18番でございますけれども、自然保護課におきまして阿蘇くじゅう国立公園でのインバウンド受け入れに向けて、ガイドの育成や着地型プログラムの開発等の委託事業を実施予定でございます。

次に、72ページをお願いいたします。

参考でございますけれども、国内からの誘客に向けた取り組みといたしまして、19番でございますけれども、観光物産課において8月末にくまもとディステーションキャンペーンの全国宣伝販売促進会議を開催し、全国から600名の参加があり、国際スポーツ大会のPRを行ったところでございます。

そして21番でございます。9月に開催されました世界最大級の旅の祭典であるツーリズムEXPOジャパンなどで観光情報の発信を行っているところでございます。

以上が、海外からの誘客の取り組みでございますが、国際スポーツ大会の成功に向け今後も部局横断的に観光客の誘客や受け入れ環境整備、そして本県の魅力発信に努めていくこととしております。どうぞ、よろしくお願いたします。

次に73ページ(2)で、国際スポーツ大会における、県産品の販路拡大に向けた取り組みについて説明いたします。

県産品の販路拡大につきましては、これまではアジアを中心に取り組んでおりましたが、国際スポーツ大会を契機として、欧米・豪市場の開拓にも取り組んでまいります。また、大会期間中は世界各国からの来熊が見込めるため、県産品のPRや情報発信に取り組むこととしております。

具体的には、欧州、ヨーロッパにおける展示会への出展、熊本県物産振興協会へのアドバイザー配置などを行うこととしております。

また、国際スポーツ大会を意識した商品の開発や外国人に好まれる商品を集めた、県物産館での特設コーナーの設置、パンフレットなどの多言語化を進めることとしております。

私からの説明は、以上でございます。

徳永農林水産政策課審議員 農林水産政策課でございます。

資料は、74ページをお願いします。

県産食材等の供給に向けた取り組みでござ
います。

6月の特別委員会以降の取り組みを中心に
御説明いたします。

(ア)県内開催の国際スポーツ大会に向けた
取り組みでございます。

本文3行目から記載しておりますが、今年
度は8月開催のおりひめJAPANトライア
ルゲームズや、11月開催の女子ハンドボール
アジア選手権大会等のプレイベントにおい
て、さまざまなプロモーションを試行してい
るところです。

具体的な取り組みとして、くまもとテー
ブルがございます。

写真のほうは、8月のおりひめJAPAN
激励会で設置したくまもとテーブルですが、
女子ハンドボールアジア選手権においても、
別の内容でのくまもとテーブルを検討中で
ございます。

次のページの 県産農林水産物の利用促進
活動につきまして、4月から選手団の宿泊等
が想定されます熊本市や八代市等のホテルに
対しまして、地産地消協力店の指定推進と県
産食材使用の働きかけを行っております。8
月末時点で、13カ所のホテルを指定してい
ます。

は、関連でございますが、本年度は女子
ハンドボールアジア選手権大会の開催時期に
合わせ、県内ホテルで県産食材を使ったメニ
ューを提供するフェアを、10月1日本日から
開催いたします。

次に、(イ)の、東京オリンピック・パラリ
ンピックに向けた取り組みでございます。

に、オリ・パラ選手村へ飲食提供する候
補事業者に対する働きかけを行っておりま
す。

次ページをお願いいたします。

具体的活動を記載しております。

7月から8月にかけて県内の希望者を

募集した後、商談を始めたところございま
す。

次の から、その次のページ につきまし
ては、品目ごとに調達基準であるGAPの認
証などの取り組み状況を記載しております。

詳細は省かせていただきますが、取り組み
としてはほぼ計画どおりに進んでいると考
えております。

農林水産政策課からの説明は、以上ござ
います。

江藤教育政策課長 教育政策課でござい
ます。

79ページをお願いいたします。

(3)国際スポーツ大会に係る教育委員会等
の取り組みについて、御説明いたします。

ア、これまでの取り組みでございますが、
の普及活動につきましては、先ほど体育保
健課長が10ページ、23ページで説明したと
おりでございますので、割愛させていただきます。

の情報発信につきましては、2つ目の丸
でございますが、広報誌による大会周知とし
まして、保護者向けの紙媒体の広報誌を9月
に21万5,000部発行し配付しております。右
側に掲載しておりますとおり、1面を使いま
してそれぞれのスポーツ大会を取り扱いまし
た。

続きまして、イ、今後の取り組み予定をご
らん願います。

機運の醸成に向けた取り組みとしまし
て、1つ目の丸でございますが、県教育委員
会ホームページに大会の情報やイベント等の
紹介を掲載しております。今後も随時更新
し、タイムリーな話題を発信してまいりま
す。

2つ目の丸、広報誌の活用につきましては
は、教職員向け「教育くまもと」の発行を年
4回から6回に増加させまして、機運の醸成
に力を入れてまいります。

80ページをお願いします。

1つ目の丸でございますが、女子ハンド、ラグビーワールドカップそれぞれ5分程度のコマーシャル映像を、1枚のDVDにいたしまして、公立、私立の633校に配付いたしました。

一校一校運動の取り組みを来年度に実施するための準備につきまして、公立、私立全ての学校で進めてまいります。

以上でございます。よろしくお願いたします。

奥村警備第二課長 警察本部でございます。

新たな取り組み等についてのみ、御説明させていただきます。

81ページをごらんください。

まず、これまでの取り組みですが、2点だけ御説明いたします。

1点目は、下の丸、熊本県警察国際スポーツ大会警備対策室の設置です。

これ部内の話ではございますが、9月1日付で県警全体、全部門が一体となった約40人体制の対策室を設置し、警備対策の充実を図りました。

2点目は、の「テロ対策パートナーシップ推進会議くまもと」の設立でございます。

42の行政機関や事業所の方に御参加をいただき、啓発活動や訓練を通じて、官民一体となったテロ対策等を推進してまいります。

続きまして、今後の取り組みです。

82ページをごらんください。

記載のとおりですけれども、とのみ補足させていただきます。

まず、の実践的な訓練につきましては、総合運動公園、陸上競技場等におきまして、車両突入を想定した訓練や、あるいはコンサートホールにおける爆発物対応訓練を計画しておりますところでございます。

また啓発活動につきましては、11月30日か

ら始まる女子ハンドボールアジア選手権大会会場におきまして、効果的な街頭活動等を検討しておりますところでございます。

の繁華街対策でございますが、県条例案につきましては、9月定例会に提出させていただいております。

また、熊本市の条例制定に向けまして、本年7月に警察官1人を熊本市に追加派遣したところでございます。

警察本部からは、以上です。

○淵上陽一委員長 以上で執行部からの説明が終わりましたので、質疑に入ります。

まず、2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件について、何か質問はありませんか。

橋口海平委員 会場について、ちょっと質問させていただきます。

ラグビーのほうでは「これまでの整備状況」という資料がついているんですが、ハンドボールも5会場それぞれ改修工事とかがあっているかと思っております。その改修状況の現状というものを教えていただきたいと思っております。

寺野政策審議監 ハンドボール5会場でございますけれども、一番大きなところがパークドーム、2番目がアクアドームということで、大きな工事は今設計をやっておりまして、来年、大会が近づいて7月、8月ぐらいから仮設工事に入りたいと思っております。

例えば、パークドームでは4面のビジョンを付けます。あるいは大きな仮設。今テニスコートになっていますけれども、かなり板を敷いたりしますので、相当の期間が使えなくなると思っております。アクアドームについても、同じような感じになります。

それと県立体育館、ほとんど今のキャパで使えるということで、大きな仮設は要らない

のかなと思っています。ビジョンを2枚付けたいと思っています、あるいはLED照明の改修等をやっていききたいと思っています。

八代、山鹿につきましては、近づきましてから仮設スタンド等の配置をしていききたいと思えます。今、順次ドーピング室ですとかメディア室、そういうやつも順次、設計を進めながら整備を進めたいと思っています。

済みません、資料のほうに詳しく書いておりませんでしたので、取りまとめて委員の方々にまず整備状況、検討状況を追ってペーパーのほうでお知らせしたいと思えます。

城下広作委員 7ページの、ボランティアの募集状況なんですけど、これをちょっと教えていただきたいと思えます。

寺野政策審議監 7月18日からボランティアを募集しておりまして、説明では申し上げましたが、少し若い人も参画していただきたいということで、高校生まで幅を広げて、ただし、ラグビーとかはオリンピックは8時間でございますけれども、6時間以内ということで、特に高校生あたりは授業もありますので、土日ですとか放課後でもできるような短時間とか、そういうことで組みさせていただいたらと思っています。

個人登録が今少しきていまして、数百でしょうか、我々もまとまった団体を回っておりまして、団体のほうからは、人事異動もあるし、協力するけれども数については来年出させていただけないかということで、50、100とまとまっていたところもありますが、それを含めまして私の感覚ではまだ1,000人までは、見込も含めて至っていないのかなということで、引き続き少し、ボランティアを募集していたんですかという認知度不足もありますので、それも合わせまして団体等を回っているところがございます。そして来年の2次募集につなげていきまして、目標とす

る人員確保について努めていきたいと考えております。

城下広作委員 ちょっとボランティアの考え方なんですけれども、とにかく一般の企業とか個人とかは当然ですけれども、例えば県職員の場合は仕事で運営に当たるからボランティアではないという話が議会でもいろいろあったのを記憶しています。

ただ、職員が、個人としてボランティア、個人として参加、という考え方はあるんですか。

寺野政策審議監 そういう形でも受け付けはあると思えますが、職員につきましては基本的に、先生がおっしゃったのと違う形になる。動員という形で、まずお願いしたいと思っています。考え方としては、あるかと思っています。そういう中では、動員がまず先になるかと思っています。

城下広作委員 最終的には、その必要な人間が確保できないとかなれば、思っていた規模とかそれに乖離があった場合には、そういうことも、それでもボランティアの精神として参加したい、協力したいと、当然仕事は仕事の枠として自分の与えられた分としてやるけれども、それ以外、個人として支える側になりたいというのは、県または市の職員であってもいいんじゃないかと思うけど、この辺は柔軟的に考えてもいいんじゃないかと思えますが、どうでしょうか。

寺野政策審議監 文字どおりボランティアでございますので、自発的にというのが基本でございます。そういう考え方も非常に大事にしながら、ボランティアについては募集をさせていただきたいと思えます。

○淵上陽一委員長 ほかに質疑はありません

か。

池田和貴委員 済みません、約1年ぐらいになりまして、先ほどから情報発信、大会成功に向けた情報発信について御説明をたくさんいただきました。

その中で、大体、今もちろんビラとかも大変皆さんに見られるんですけど、やっぱりほとんどの人はネットで検索なんですよ。そういった意味では、どういうふうにそのネットで情報を、皆さん方は最終的にはどこに熊本の情報を発信しようとするような、まあ道筋といいますか、そういうのを考えているのか。ちょっとその辺を教えていただければと思うんですけど。

寺野政策審議監 おっしゃるように、情報の識字率は非常にSNSが多いということで、例えば我々も今ずっと、ファンクラブを募るということで、既存のやり取りがありません。そこを利用しながら、まずは県内に打っていきなと。それから先ほど申し上げましたけども、全国組織あたりで、なかなか、特にハンドボールは全国的に認知がないんで、彼らも通じながら、紙に加えましてSNSで九州、全国へと打っていきなと。まだまだ熊本県内という部分もありましたので、大阪、東京、福岡あたりのメディアも回りながら、彼らの映像あるいはSNSを借りながら、そういう形で発信していきなとと考えております。

池田和貴委員 今おっしゃったように、説明があったように、情報発信はすごく必要なんですけど、大体SNSとかYouTubeとかというのは、いわゆる情報のフローといいますか、ずっと流れていく情報であって、実際はそれをストックしているような、全てを見られるようなサイトがあって、最終的にはそこに導くような情報の動線もやっていかな

いといけないんだというふうに思うんですね。それは、熊本県の場合はそれは「なごみ紀行」とか、そういったところでもよろしいんですか。「なごみ紀行」も含めて、こういったところにネットで見ると人たちの最終的な情報を見てもらうように考えているのかということなんですけれども。

波村国際課長 「なごみ紀行」については、12月に全面リニューアルを完成し、1月までにラグビーワールドカップのチケットの一般販売が開始されて、1月までにはこれに加えてフランス語、ドイツ語を整備しようと思っておりますけれども、これが海外の誘客についての情報を掲載することとしておりますけれども、大会全体、ハンドボール、ラグビー大会全体のPRについてはちょっとまだ検討する必要があるというふうに思っております。

池田和貴委員 私たちもそうなんですけど、例えばラグビーワールドカップ熊本としたときに、検索をかけたときに、どれが一番上にくるかということが重要で、そこが基本的には全ての今までの流れた情報が集約してあるようになるのが、私は理想的じゃないかというふうに思うんですね。そこを起点にいるんな人たちが、観光情報の場合に観光情報にいくし、大会の運営とか会場とかだったらそこに行くしというような、いわゆるきちんとして情報の発信のベースキャンプというか、一番もとになる部分というのが一番上にくるようになってないと、何かばらばらばらばらになってしまうような気がするんですね。そういう戦略というのは、どういうふうに考えているのかなと思っておりますけど、それはどうなんでしょうか。

寺野政策審議監 委員から御指摘あったことを踏まえまして、観光情報ずっと「なごみ

紀行」じゃなくて、チケットの情報ですとか会場の情報とか含めまして、きちっと、三々五々とならないような一体的なストックとか固まりができるようなあり方について、観光サイド等関係課と相談しながら、一番ヒットするような感じで構築を検討させていただきたいと思います。

池田和貴委員 ぜひそれはつくっていかないと、一番トップにくるということは一番検索がふえない一番トップに上がってこないですね。今の段階でまだできてないということであれば、ちょっとこれは早急にやってもらわなきゃいけないと思いますし、チケットの販売があって、例えば私自身がどこかよそのところでチケットを、見たいと思ったチケットを取ります。取った瞬間に、じゃ、どこに泊まろうかなとか、どこにそのとき行くかなというのは、もう計画始めるんですよ。そう考えると、今もうチケット販売が始まっているこの段階で、やっぱりそういうのができてないというのは、ちょっとやっぱり遅いというふうに思いますので、やっぱりそこはスピードアップしてもらわないと、ハンドボールを含めてというふうに思うんですけど、いかがでしょうか。

寺野政策審議監 単発でやっていて、リンクを貼るやり方ぐらいしかやっていけませんので、もっとリンクを貼るとか、全体に貼るようきっちり構築に努めていきたいと思います。ありがとうございました。

池田和貴委員 済みません、県警の方にも、今回は代表質問で取り上げさせていただいたときに、官民テロ対策パートナーシップ推進会議くまもとも立ち上がっているんですけど、警視庁から内閣府のところ、この推進会議が立ち上がって都道府県というバナーが貼ってあったんですけど、ここに熊本はなか

ったんですね。実際はやられているかとは思いますが、やっぱりこういう情報発信もしていただいたほうがいいんじゃないかなというふうに思いますので、ぜひその辺は確認をして、よろしくお願ひしたいと思います。

○淵上陽一委員長 ハンドボールの件については、ほかにありませんか。

松田三郎委員 資料9ページ……、ハンドボールですね。ラグビーと違ってハンドボールの場合は熊本県内の会場だけで完結するという意味では、例えばインバウンドも必要ですけれども、国内でも東京の人たちは、何か九州の熊本で大会があるみたいだよぐらいで終わってもしようがないわけですから、この支援する会というのは非常に大きな必要性というか意義があると思います。

そこで、済みません小さい質問であれですが、3番のメンバーの全体で150人というのは、これは熊本県内の方以外で大体これぐらいの数を想定しているのかというのが1点と、この福井さん非常に、元日銀総裁で私も顔と名前ぐらい存じ上げておりまして、非常に大物ですが、「わあーっ」というタイプじゃないので、何か特別、熊本と縁がある方とか、特別ハンドボールに縁があるとか、そういったことからこういう人選になったのかどうか。他意はないですよ。ただ純粹にお聞かせいただければと。

寺野政策審議監 後段の質問のほうからですね。ハンドボールを愛する会で、界友会というのがございます。中学、高校、大学、社会人でハンドボールをした人で政界、財界に行かれた方、この代表を福井さんがおやりになっています。こういう御縁のもとお願ひしたところ、受けようかと。それで界友会、経済界の方あるいは議員の方、議員連盟の方、国会議員の。あるいは各県のハンドボール協

会長、いわゆるコア層ですね、その方々を中心に県外中心に150人、県内も関係者がいらっしやいますので、ハンドボール協会長とか、県内数名。それで全体で150名を予定しているところでございます。

松田三郎委員 「界友会」って、初めて知りました。ありがとうございます。

いいです。

○淵上陽一委員長 ほかに質疑はありませんか。

なければ、次に ラグビーワールドカップ 2019熊本開催に関する件について、質疑はありませんか。

城下広作委員 ハンドボールもラグビーも一緒なんですけど、熊本市とか特に宿泊もこれは足りるんですかね。外国の方がいっぱい来てもらうんですけど、宿泊が今の段階で完全に余裕とか全然足りないとか、そういうのはどうなんでしょうか。

寺野政策審議監 ラグビーにつきましては、選手、関係者の宿泊は組織委員会が手配しております。ハンドボールは我々が、選手、関係者を手配しております、ほぼほぼこれにつきましては押さえているところでございます。問題はメディアの関係者とかあるいは一般の観光客でございますけども、これにつきましてはやっぱり旅行関係者と相談しながらきちっと、先ほども御質問がありましたとおり、情報発信しながら早めに宿を押さえる必要があるかと思っております。

ちなみに、県下全体では5万7,000泊ぐらいの部屋数はあると聞いていますし、熊本市内でも1万2,000ぐらいあると聞いていますので、うまく情報整理しながら宿を予約していく、押さえていくというやり方が必要になってくるかと思えます。

城下広作委員 ハンドボールとかラグビーのとき以外に、通常の仕事で皆そういうところには泊まるわけだから、結局かぶるわけですね。みんなそのときだけは熊本に仕事に行くのはやめようというのはないわけだから、それは全部本当にそれだけ余裕があるのかというと、私はちょっと甚だ疑問ですけども。その辺の精査というのは細かく、今、煮詰めて今のその数字を把握しているということですか。

寺野政策審議監 一般客等につきましては、細かく精査しておりません。大会関係者については押さえておりますけども、今後はやっぱり委員がおっしゃったような精査をしながら、きちっと一般のビジネス客とのすみ分けを図った宿泊が必要になってくるかと思えます。

城下広作委員 特に、ヨーロッパの方は個人で来る。団体じゃないからホテルが、ある意味では旅行客が取るといような形はない。個人で取る。そうすると、まともなホテルばかりじゃなくて、個人の民泊というか、個人のああいうのにも非常に長期滞在すると聞いている。そういう感じは考えていますか。

上田観光物産課長 観光物産課でございます。

城下委員御指摘のとおり、外国人の方は日本に半ばホームステイみたいな感覚で、日本文化に触れたいという方が結構いらっしやいますので、私どもは少し想定をして準備をしております。

民泊が、例えば先行事例でいいますと、弘前市のねぶた祭りとかあるいは徳島の阿波踊りとか、ああいう期間限定の2泊とか3泊程度で個人宅を、旅館業法の許可なしに提供で

きるというのが、イベント民泊という仕組みがございませう。そのイベント民泊についての勉強会を8月の半ばぐらいに、市町村の方々とやったところだす。

ちなみに、講師として来ていただきましたのは、既に先行している、先ほどの弘前なんかでイベント民泊について受託をして、出退管理なんかをしていただいた業者さんに来ていただいて、実態としてみんなで共有をしたところだございませう。

城下広作委員 そのイベント民泊というか、そういう部分は手応えはどうだすか。あるいは熊本で広がって、ある程度皆さんが対応できるような雰囲気には、今からつくるんではしうけど、手応えとしてはどうだすか。

上田観光物産課長 観光物産課だございませう。

民泊の説明会をしたときには、ほとんどの市町村御出席ありました。ただ、イベント民泊ではない正規の届け出が必要な民泊だございませうが、最新の情報だと、許可できたのがまだ20件程度だございませう。予想した以上には余り民泊が伸びていないということもございませうして、少しそこはまだ余裕を持った少しのんびりしているところはあるかと思ひませう。

城下広作委員 ぜひ、宿泊というかそういうことに細かく気をつかうことによつて、熊本に来てよかったとか、逆に来ようと思ひただけだ泊まらなかったということだ、ある意味では不評を買わないように頑張つていただひたいと思ひませう。

委員長、もう1ついいだすか。

○淵上陽一委員長 はい、どうぞ。

城下広作委員 イギリスだつたかフランス

だつたか、外国の場合だ応援団というのは、すごく血の気があるじゃないだすか。そうすると、いろいろ試合の勝ち負けによつては争いがうんぬんかんぬんとあるとき、こういうことは警察として、何か想定は.....。応援団が暴走するとかそういう何か、試合の状況なんかようわからぬけども、あれは何というのか。

奥村警備第二課長 サッカーに比べてラグビーは紳士のスポーツということだ、いわゆるフリーガンのようなのは少ないとは聞いておりますけれども、もちろん雑踏対策でありますとか暴徒対策は進めておるところだございませう。

城下広作委員 ないように祈りたいと思ひませう。

○淵上陽一委員長 ほかにありませんか。

波村国際課長 先ほどの海外からの宿泊の件だございませうけれども、城下先生からの御指摘だございませうけれども、今のところ具体的にはまだホテル名とか申し上げられませうけれども、海外からの宿泊は徐々に入つてきておひませうして、ラグビー開催はアジアで初めてということだ、ホテル側も少し戸惑っている状況ということだ聞いております。

ただ、今まだ1年前ということだオープンにしてないところも多ひありますので、早めに関けるようにホテル側に指導していきたいというふうだ思ひておひませうして、予約の把握を11月、1月には定期的に行ひませうして対策を立てていきたいと思ひておひませう。

それと足りない場合は、熊本市、阿蘇に集中すると思ひませうので、これを各地域まで広げるように、各地域の観光団体と連携して対策を立てていきたいというふうだ思ひておひませうので、よろしくおひ願ひいたします。

橋口海平委員 14ページ、15ページのところについて質問です。

I D登録チケット購入に関するサポートセンター、このサポートセンターの現在の状況というものを、販売状況とかも教えていただければと思います。

寺野政策審議監 申しわけございませんが、販売状況については組織委員会のほうで管理しておりまして、細かい数字は知り得ておりませんが、初日は非常に好調で、これは全国ベースですけれども、30万人ぐらいの応募があったと聞いております。

上通につきましては、人が切れないぐらいの範囲で、いろんな問い合わせがきてしていると聞いております。

数字については、申しわけございませんが承知しておりません。

橋口海平委員 サポートセンターなんですけど、熊本市1カ所ということなんで、ぜひ要望等があれば、それぞれの地域とかでもこういうサポートセンターがあれば、地域でなかなか買えない方も足を運んで買えるかと思えますので、その状況に合わせて対応していただければと思います。

○淵上陽一委員長 要望ですか。

橋口海平委員 はい。

○淵上陽一委員長 ほかに質疑ありませんか。

なければ、次に 2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件について質疑はありませんか。ありませんか。

質疑がなければ、次に 国際スポーツ大会の成功に向けた取り組みに関する件について質疑はありませんか。

吉田孝平委員 48ページをお願いします。

ラグビーワールドカップの開催1年前イベントとしてC O C O S Aの前でパレード等、体験等もされましたけども、これはかなり報道等でも取り上げていただいて、地元の周知にはかなり役に立ったと思うんですけども、ハンドボールのほうではこういった活動開催をされないのかを聞きたいと思います。

寺野政策審議監 今、委員の御説明は、非常に反響がよかったと。ハンドボールのほうでも1年前が近づいてまいりましたので、11月末になりますけれども、チケット販売等とあわせて、こういった外に広く打ち出すことを今検討中でございます。

吉田孝平委員 私も端から見て、ラグビーの開催は、周知は割りかし進んでいると思うんですけども、ハンドボールのほうなかなか周知が進んでないんじゃないかというふうに思っておりまして、ぜひ、こういった活動をしていただくと一番、ハンドボールとか特に熊本県での開催ということなんで、地元の方たちの協力が一番必要となってきますので、ぜひこういった活動をしていただければと思っていますので、要望をお願いします。

（「補足になります、委員長」と呼ぶ者あり）

寺野政策審議監 11月30日はアジア選手権がありますので、まずこれを一番のPRとしてとらえていただきまして、順次、今委員からありましたような取り組みを進めてまいりたいと思っております。よろしくをお願いします。

内野幸喜委員 今回の質問と似たような感じなんですけど、43ページにPR活動とありますが、ラグビーの場合それぞれ話がありました。先ほど松田先生からも話がありました

が、全国的な大会なんで非常に盛り上がってくると思います。特に熊本の場合は、開会式後2週間それから3週間後の試合なんです。県内でも非常に盛り上がってくると思います。この女子ハンドボール世界選手権については、県内だけでの開催ですね。今、熊本県内ですら、まだ余り認知されてない部分もあって、これをいかに全国に広げるかということが大事だと思います。

そこで、ここを見ると、くまモンを活用したPRというのをやっていると思うんですが、メディアですね、いかにメディアに取り上げてもらうかということが、やっぱり大事になってくると思います。

この間たまたまテレビを見ていたら、ラグビーについてはNHKさんと日本テレビさんが放映、放送するという話がありましたけれども、この女子ハンドについて、それも放送体制、放映体制というのは決まっているのか。もし仮に決まっているのであれば、そういったメディアを通して全国に広くPRしていくということは大事だと思っているんですが、その点はどうでしょうか。

寺野政策審議監 世界選手権の放映につきましては、IHF国際連盟がメディア会社と契約するんですけども、先日新しいメディア会社になりましたところございまして、どういう放映をするのか、国内の制作会社はどこなのか、今から協議をやっていくところでございます。それが決まったら、おっしゃったように一番露出が高いのはそこでございますので、熊本の試合が取り上げられるような協議をやっていきたいと思っております。

内野幸喜委員 とにかく、まず国内でも認知してもらうように、県もそうですが、そういう活動を積極的にしていただきたいと思っております。

○淵上陽一委員長 ほかに質疑はありませんか。

池田和貴委員 今、内野先生がおっしゃったように、メディアの露出それと日本のナショナルチームの活躍が重なっていくと、どんどん皆さんの興味とか認知は進んでいくと思うんですけど、それは大会になってからもそうなんですけど、その前も重要で、例えばアジア選手権とかありますし、また今後その大会に向けているんなメディアに載せていただいて、おりひめJAPANが活躍しながら興味が上がっていくというのが一番望ましいんじゃないかと思うんですけど、アジア選手権のほうはどういう……私は放送があってもいいんじゃないかなと思っているんですけど、その辺はどうなんでしょうかね。

寺野政策審議監 その件につきましても、先日試合が決まったということで、これはアジア連盟と協議しまして、今までのアジア選手権におきますと、なかなか映像に取り上げた事例は少ないということでございまして、たぶん前回の韓国戦では決勝だったと。少なくとも日本戦は我々は取り上げてもらいたいと、決勝ラウンドについては。そういう方向で協議を今進めておるところでございます。

池田和貴委員 例えばたくさん、すごい広範囲に流すということは大変なんですけど、例えば熊本県内でも、そのアジア選手権のやっぱりおりひめJAPAN活躍が見られるとか、県内とか、そういうのも含めてぜひ考えてもらえればなというふうに思うんですけど。

寺野政策審議監 そういう意味合いもありまして、今地元のマスコミの方とも、マスコミのほうからも取り上げたら一番だぞという

ことも、そういう話し合いを進めているところでございます。

○淵上陽一委員長 ほかに質疑はありませんか。

吉永和世委員 機運醸成って大変大事なことだと思います。特に県内機運醸成というのは大事だと思いますけれども、一番、影響力があるのはやっぱりくまモンかなとちょっと思っているところでございますが、くまモンの今そのハンドボール、ラグビーに向けての、この資料にもあるんですけど、頑張っているらっしゃると思うんですが、直接担当課のほうからちょっと御説明いただければと思います。

小金丸くまモングループ課長 くまモングループでございます。

今、吉永委員のほうから御質問をいただきましたが、資料の中でも取り上げておりましたが、70ページでございます。70ページの中に取り上げておりますが、特にこの中で14番「くまもとから未来をプロジェクト!」、これは国際スポーツ大会推進部と連携をいたしまして、ハンドボールないしはラグビーを含めたところで、県外あるいは県内に向けての情報発信を積極的に行っているところでございます。

先ほどから各委員から御質問をいただいておりますが、メディアをどう活用するかということでございますが、こういった県外のところを訪問する際には、必ず新聞社あるいはテレビ局を訪問することにしておりまして、そういったことで、くまモンが参りますとその地方紙ないしはテレビ番組でニュースで取り上げていただくということなので、そういった点を注意しているところでございます。

それから、ちょっと合わせまして、現在くまモンTVというユーチューブ、くまモンが

ユーチューバーになったところでの取り組みを始めまして、先週の月曜日と今週の月曜日2回で、これはこの前の8月の上旬におりひめJAPANが8月5日から熊本に来られた際に、くまモンと一緒に動画を撮影しております。それを放映しておりますので、5カ国語で放映しておりますので、国内のみならず海外に向けて、熊本でそういった世界ハンドボール大会があるということを告知する手段として取り組んでいるところでございます。

吉永和世委員 くまモン頑張っていると思います。

くまモン人気があって、今後もそうでしょうけど地域のイベント等に御案内があるんだろうというふうに思いますが、そういったところでも、細かなことかもしれませんが、そういったところでもやっぱりハンドボールあるいはラグビー等について何かこうPRするという、そういった行動もしていただければありがたいと思いますので、その点も考慮いただいて実行いただければと思います。

溝口幸治委員 海外からの誘客の取り組みについてにかかわってきますが、先般、淵上委員長それから前委員長の池田先生それから橋口先生、吉田先生と一緒にイギリス、フランスへ行かせていただきまして、執行部からも何人か一緒に行ったわけですけど、そのときに強く感じたことは、なかなか、日本はわかるけど九州、熊本と下りていくとだんだん認知度が低いというか、「熊本って一体どこ」というような感覚の方々が多かったという気がしています。ですから、先ほど池田先生がおっしゃったように、情報発信というのは非常に大事なものだというふうに思いました。

それと、もう一つはラグビーとハンドボールはやっぱり、我々は今こままでずっとラグビーとハンドボールで海外誘致という考え方

をずっと言葉ではやってきましたが、やっぱりラグビーの大会とハンドボールの大会は全然違うというふうに、もう少し認識を強くするべきかなということを感じたんですね。ラグビーの場合はやっぱり世界各国から多くのファンがいらっちゃって、世界の3大大会と言われるぐらいあるので、本当にコアなファンの方がいらっちゃって、ラグビーの大会のときにはそういう旅行をして回るというような文化もあるということで、そういう方々がたくさん日本にも訪れていただく可能性が高いということで、それを考えると熊本あるいは九州でも多くの方々に訪れていただく可能性は高いというふうに感じました。やり方次第ではですね。しかし、ハンドボールについては、やっぱりずっと話をしていると、選手とか関係者とかその家族とか、そういう人たちはたぶん来ていただくんですけど、何か全然、もっと多くのファンがいて、そういう人たちがどンドンどンドン押し寄せてくるような感覚がなくて、例えばハンドボールは中体連みたいな、選手とか関係者は熱く盛り上がって、その家族もじいちゃん、ばあちゃんを含めてみんな一生懸命、選手のためですから応援行きますけど、じゃあ、地域を挙げてとかそういうふうには何となく、ラグビーと比べれば、例えは正しいのかどうかわかりませんが、そういう位置づけだというふうに感じたんですが、そう考えるとラグビーとハンドボールは完全に分けて、執行部でもこう誘客については考えていく必要があるんじゃないかと思いますが、そのあたりどのように考えていらっしゃるのか、お尋ねをいたします。

波村国際課長 国際課でございます。

溝口先生のおっしゃることについて、私もイギリス、フランスへ行ってまいりましたので、実感しているところでございまして、ラグビーについてはいろんな広いファンがいら

っしゃいますので、これまでと同様、日本、九州そして熊本、各関係団体と連携して九州、熊本を売っていかねばいけないというふうに考えております。

そしてハンドボールについては、確かに関係者、特にコアのファンしか熊本まで来ていただくことは難しいだろうなというふうに実感しておりますので、寺野政策審議監とこれから戦略を立て直しまして、国内誘客も含めて、これは観光物産課とかもありますけれども、新たな展開をしていかねばいけないというふうに考えているところでございます。

溝口幸治委員 全く私も同感で、そう考えるとハンドボールの場合ですよ、先ほどからPRとか国内対策大事だとおっしゃってますけど、やっぱり県内から多くの方々に会場に足を運んでいただくというようなことを地道にやっておかないと、何か意外と会場すっからかんだったということになりかねないので、やっぱり国内対策、この辺の近隣とか、例えば各市町村の姉妹都市とかそういうところにも声かけて、とにかく国内からしっかり動員をしておかないと、やっぱり厳しいかなと思います。結果的にそういうつながりが、宿泊をしていただいて熊本全体が潤っていくということになるので、そのあたりぜひ考えていただきたいというふうに思っています。

それで情報発信の点でいうと、これは今度国際スポーツの大会推進部というよりも、もともと熊本県で熊本がこういうイメージで売りたいというのがあるはずなんです、広報課、くまモングループ、そこも含めて、熊本はこういうイメージで売りたいというのがそもそもあって、それがしっかり戦略があるはずなんで、そのある戦略に付随して今回その国際スポーツ大会、例えばラグビーだと池田先生がおっしゃるようにチケットの販売だとか宿泊とか、こういう特徴をしっかり結びつ

けて、この戦略の中に集約をしていって売っていくのが大事だと思いますし、そういう点で言うともう既に、例えば広報課とかくまモングループとか、熊本県全体の広報をやる課が、そこまで見越して動いているのが当然のことではないかというふうに考えるわけですが、寺野課長の話でいくと今から関係課と調整してという話になっていくわけですが、恐らく国際スポーツ大会推進部も非常に仕事量が多いので、まさに全庁的な取り組みという点では、広報課とかくまモングループなのか、その辺が率先してそのイメージ戦略、どうやって売っていくか、熊本全体をどうPRしていくかということをお急ぎにやっぱりやっていかないと間に合わないと思うんですね。一般販売が11月の何日まででしたっけ、もうそういう時期なので、どんどんどんどんやっていかないと大分立ち遅れていくし、これは逆に言うところの国際スポーツ大会を活用して熊本のイメージアップを図るのが大きな目的であるわけですから、今からでも遅くないので早くそれをやるべきだというふうに思いますが、寺野さんに聞いたほうがいいですか、ほかの関係課、「関係課」と言ったらあれですが、まあ寺野さんで。

寺野政策審議監 まさにおっしゃるとおりでございます。違う部署で企業誘致をやっておりましたけれども、まず日本だなと、そして九州はどこなんだ、熊本は何だ水だと、こういう基本コンセプトからPRして、ディテールに入っていまして、まさにおっしゃるとおりだと思いますので、そういうPRがまだ少し不足しているところは早急に、まあ土台はあるはずですので、それをやって、熊本は一体何なんだ、そしてこれに加えるような形でPRをさせていただきたいと思います。

溝口幸治委員 できれば、その辺の全体的な、きょうはたくさん プロガーとか招聘

しているいろいろやっていると、それはわかるんですけど、体系的にどうやっているのかというのが、やっぱり我々もしっかりそこは共有して、我々も一緒にPRをやりたいと思いますので、そのあたりのわかるようなというか、こういう戦略でやっているというものを、次回と言うと大分遅くなりますので、できた段階で委員長、副委員長に御相談いただいて、そして我々にも教えていただければというふうに思います。

以上です。

白石政策審議監 知事公室でございます。

今、溝口先生からお話ございましたけれども、知事公室のほうで広報課それからくまモングループを所管しております。復旧・復興の重点項目ということで、この国際スポーツについても復旧・復興の中でしっかり熊本の復旧の姿を見ていただくということで、重点項目に入れて取り組んでおりますので、おっしゃったようなことも含めて、国際スポーツ推進部と一緒にしっかりやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

○淵上陽一委員長 ほかに質疑はありませんか。（「要望でもいいですか」と呼ぶ者あり）どうぞ。

橋口海平委員 49ページの都市装飾についてなんですが、前回のラグビーワールドカップのときに、カーディフ城の城壁にボールがめり込んでいましたので、それを必ずマスコミで放映される時は、そのシーンが必ず出ておりました。こういう細かい都市装飾系のも必要なんですが、ぜひラグビーとハンドボール両方とも、何か日本で一番目立つような都市装飾というものをやってもらって、必ずそこが出るというような取り組みというのも必要かと思っております。それを出す時期というのも早いのがいいのか遅いのがいいの

かというのは、早いとたぶんかぶされたりもするので、ぜひそういったのも考えていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

○淵上陽一委員長 ほかにありませんか。（「警備体制についてでもいいですか、警備体制」と呼ぶ者あり）はい。

松野明美委員 警備体制につきまして。繁華街の中、対策とか、交通安全の対策とかもあると思うんですが、私がお聞きしたいのが、選手が選手村とか試合会場に入るときの警備体制というのはどのようになっているのかなと思ひまして。もう1年前ですから、たぶん進んでいるのかなと思って聞きたいんですけど。

奥村警備第二課長 御質問の件でございますけれども、警備をどのエリアを警察が担当する、どのエリアは民間の警備が担当すると、そういったところガイドラインに従って今進めておるところですけれども、今申し上げられるのは情勢に応じて警察ではガードする度合いを考えていくというようなところで、現状では具体的にこういう方法というのはまだ検討段階というところで。

松野明美委員 検討段階ということで、たぶんこれから先は警備体制というのは進んでいくのではないかなと思うんですが、私が30年前にオリンピックに行ったときに、選手が外に練習に行くんですね、練習に行きまして選手村に帰ってくるときに、IDカードというかパスポートのようなものを必ず首にかけて選手村に入らなきゃいけなかったんですよ、写真を付けまして。それで警備員が必ず写真と本人かということを確認して、そして何も持っていないかとか非常に厳しかったんですね、30年前ですけど。私もちゃんとIDカードを首にかけて、練習が終わって選手

村に戻ろうとしたときに、出て行くときは簡単に出て行くんですけど、入るときは非常に厳しくて、ちゃんとIDカードを首にかけているんですけど入れないんですよ。警備員が「おまえは小柄だから小学生だ」と。オリンピックの選手ではないと言うんです。本当にこれ一生懸命言って、「私は選手だから入れてください」と。ですから結局は日本選手団の監督を呼んできて説明をして、やっと入れたというような出来事があったんですけど、今思えばそれだけ厳しかったんだなと、ちゃんと警備をしているんだなというのがわかるんですけど、あのときは腹が立って腹が立って仕方がなかったんですけど、それぐらいに非常に厳しかったというのがあるので。でも今はあれぐらいの厳しさがないと、いろいろなことがある世の中ですから、できるだけ厳しくやっていただければと思いますので。特に、選手が選手村とかホテルとか、会場に入るときの厳しさというのは、やっていただきたいというふうに思いますね。お願いいたします。

奥村警備第二課長 委員御指摘のとおり、特に会場においては入れる人、入れない人、どこまで入れる、どこまで入れない、この区分が一番大事ですのでID等による厳格な分別はしっかりやっていきたいと思ひます。

寺野政策審議監 ちょっと補足させていただきます。今はADカードと申しますけれども、アクレディテーションカードといいますけれども、選手、役員、スタッフ全部区別がつくように、これでコントロールします。我々のほうで、県警と相談しながら宿泊、輸送、警備の中できつとやっていきたいと思ひます。

何かあったら大変でございます。何も無いのが当たり前でございます。きちっとADカードでコントロールする予定でございます。

淵上陽一委員長 はい、質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

淵上陽一委員長 なければ、質疑はこれで終了します。

次に、閉会中の継続審査について、お諮りします。

本委員会に付託の調査事件につきまして、審査未了のため次期定例会まで本委員会を存続して審査する旨、議長に申し出ることとしてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

淵上陽一委員長 異議なしと認め、そのようにいたします。

次に、その他として何かございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

淵上陽一委員長 それでは、これをもちまして本日の委員会を閉会します。

午前11時25分閉会

熊本県議会委員会条例第29条の規定により
ここに署名する

国際スポーツ大会推進特別委員会委員長